

－ 5. 気象講座雑感 －

第28回気象講座「新しい気象」

日本気象協会北海道支社 西山 直樹

第28回気象講座「新しい気象」を平成22年7月26日～27日に開催し、延べ21名に参加していただきました。熱心な受講者に恵まれ、盛況のうちに無事終了しました。

1日目は札幌市青少年科学館において、「北海道は蜃気楼の名所」（講師：小樽市総合博物館 大鐘 卓哉氏）、「地球温暖化とそれをめぐる懐疑論」（講師：北大地球環境科学研究所 渡邊 豊氏）の講演と館内見学を行いました。

大鐘講師には、石狩湾で観測された蜃気楼の動画の紹介、蜃気楼のメカニズムについて解説していただいた後、食塩水を使った実験や講師のコレクションの浮世絵の紹介など、受講者に蜃気楼を体験できるように講演を進めていただきました。石狩湾では4月～6月の海水温が低い時期に、暖気が入ったときに蜃気楼が見られることがあるとのことでした。

渡邊講師には、地球温暖化の議論に対して中立な立場で、海水温と二酸化炭素の時系列データの比較など懐疑論者が引用する資料について、その現象の理由や時間スケールなどから懐疑論者の主張の問題点について解説していただきました。結論としては、地球温暖化が進んでいるであろうとまとめていただきました。

2日目は札幌管区气象台において、「天気図や気象衛星画像の見方と地上気象観測」（講師：瀧田 芳信氏、村島 巧氏、山下 正也氏）、「地震防災」（講師：高井 信雄氏）の講演を行いました。

村島講師には、使用されている気象観測機器などについて講演していただきました。札幌管区气象台のかつてのレーダドームでは、ラジオゾンデの追尾と日射量・下向き長波放射量の観測を行っているとのことでした。また、龍田講師には、北海道付近を通過した低気圧を例に、大気を三次元的にとらえて天気図と衛星画像の見方を講演していただきました。

高井講師には、アニメーションを用いて地震が伝わる様子を再現していただき、また、模型実験で建物が倒壊する動画などを用いて、耐震設計の違いによって、建物の倒壊の仕方が全く異なる様子を分かりやすく講演していただきました。耐震設計・耐震補強の重要性が伝わったと思います。

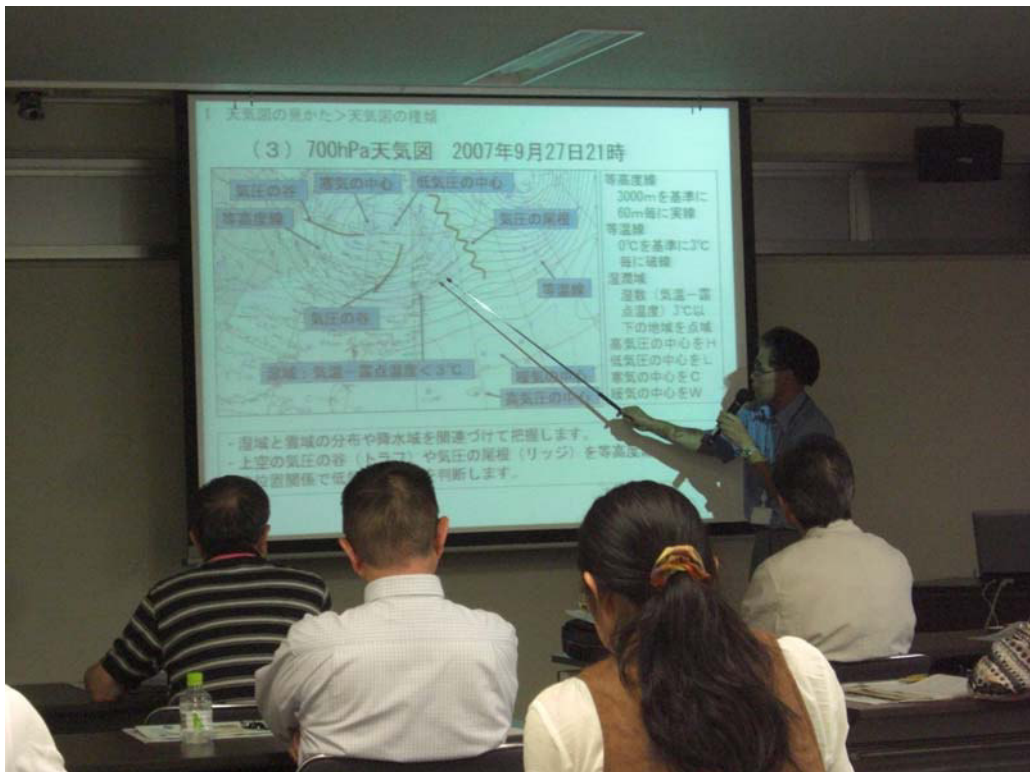
アンケート結果の抜粋を以下に記します。

- ・実験や蜃気楼に関わる浮世絵など体験型の講義は、とてもわかりやすかった。
- ・温暖化の知らない面を知ることができた。関心が更に増し、改めて考えるきっかけになり、もっと聴きたかった。
- ・気象観測に使われる機器や天気図を、どのように見ればよいかわかってよかった。
- ・「地震が人を殺すのではなく、建物の損壊が人を死に至らしめる」という言葉が非常に重く感じられた。命を守ることは大切です。

今後も多くの方に参加していただき、身近な気象現象や最新の気象知識について伝えていきたいと考えます。



受講風景（札幌市青少年科学館）



受講風景（札幌管区气象台）